

描かれた 朝鮮人虐殺と 社会的弱者

2018年高麗博物館企画展示

関東大震災95年

7月4日(水)～

12月2日(日)

—記憶・記録・報道—



芋畑に逃げ込む 朝鮮人

(当時本横小4年・山崎巖
／東京都慰霊堂保管)

2018年9月1日は、関東大震災から95年になります。震災時の朝鮮人虐殺事件については、犠牲者の正確な数が隠蔽され、国家責任もうやむやのまま、賠償もなくきちんとした慰霊もされていません。また虐殺された被差別部落民や障がい者など社会的弱者の存在も忘れてはなりません。こうした現実を踏まえて、震災を直接体験し、加害行為の赤裸々な実態を描いた絵画や文章、子どもたちの感じたままの絵などに注目して、事件の本質に迫ることを目指します。

当時の人々は何を記憶し、記録したのか、どう報道したのかにも注目します。今日では教科書から記述が削られ、虐殺にリアルに迫る展示が困難になっています。この厳しい現実に対して、私たちは事件の本質と日本人の朝鮮観、差別意識などをあぶり出していきたいと思ひます。



朝鮮人虐殺の図

(河目悌二が描いたと思われる／国立歴史民俗博物館所蔵)



「自警団ごっこ」

(竹久夢二『東京災難画信』)

市民がつくる日本・コリア交流の歴史博物館



高麗博物館

고려박물관 KOREA MUSEUM

新宿区大久保1-12-1 第2韓国広場ビル7階

TEL:03-5272-3510 FAX:03-3207-0533

開館時間:12:00～17:00 休館日:月・火曜日

E-mail:kh@kouraihakubutsukan.org

URL:https://kouraihakubutsukan.org/

入館料:一般 400円・中高生 200円